11. ザトウムシ16種の染色体

鶴崎展巨*・J.C. COKENDOLPHER

マメザトウムシ科（1種）とマサトウムシ科（15種）の核型を調べた。2n染色体数は前者が30（Caddo agilis マメザトウムシ）、後者は10〜32の範囲で出現した。スペサトウムシ亜科の3種（Nelima satoi サトウナミザトウムシ、N. similis アズマヒメナミザトウムシ、Eumesosoma roeweri）でXY（♂）-XX（♀）の性染色体を確認した。Mitopus morio スジザトウムシ（2n=32）で、クモ形類ではこれまで報告のないZW（♀）-ZZ（♂）の性染色体の存在が示唆された。
ZW-ZZ型は本種の属するマサトウムシ亜科では一般的な性染色体シス템である可能性がある。またCalifornia産のProtolophus tuberculatusでは同一集団内で2n=18,20の2型が認められた。それぞれは本種にみられる3触肢サイズの2型と対応しており、興味がもたれる。これまでに得られている知見を総合し、ザトウムシ類の核型ならびに性決定システムについて概観した。